

- 1 演習名 工業経済学(川端)演習
- 2 テーマ ケース・スタディで見る企業と産業
- 3 テキスト まず産業研究の方法と日本経済の現状について、難しくないテキストで学びます。新刊を使うこともあるので未定ですが(この原稿は9月に書いています) 決まり次第ホームページで発表します。以後、各自がテーマを持って研究報告します。
- 4 趣 旨
 - * 産業経済のレポート・論文を書けるようになるう。
 - 対象は工業でなくともかまいません。これまでの卒業生の演習論文テーマは、飲料容器リサイクル、放送メディア、成果主義人事管理、家電流通、MP3 ファイル交換問題、宮城県の産業構造、戦後半導体産業史、自動車生産システムの海外移転です。
 - * フィールド調査に出かけよう。
 - これまでトヨタ、日産、NKK、日立などを調査しました。
 - * 社会人と交流しよう。
 - 前任教授時代から続くOB・OG会があり、現代産業研究会研究会(ホームページ参照)や懇親会を行っています。
- 5 募集人員 学部のルールにより、9人まで受け入れます。
- 6 参加条件 無断欠席をしないこと。 学外での取材を行うことがあるので、これに参加すること。 メール、ブラウザ、オフィス・ソフトをそこそこ使えること。ゼミに入ってから学んでもまにあいます。2004年度基本専門科目「企業論」も受講してください。 経済数学は必要ありませんが、文章を読みこなす力は必要です。
- 7 選考方法 希望者が9人を越える場合は選抜を行います。
- 8 運営方針
 - * ゼミの進め方は二つのパターンがあります。
 - テキストの輪読。レポーターが報告し、全員で議論する。

各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論する。
* 年度末には調査記録・研究報告集や演習論文集を発行します。
きちんとした調査計画には書籍・機材等を支援します。
* 資料をじっくり読む書齋派の研究と、色々な人にとって話を聞く
フィールド派の研究の、いずれかにとりこんでください。

- 9 担当教官
の主要な研
究業績
- 編著：大野健一・川端望編著『ベトナムの工業化戦略』（日本評論社、2003年）
共著：植草益編『日本の産業システム2 素材産業の新展開』（NTT出版。近刊）森澤恵子・植田浩史編『グローバル競争とローカライゼーション』（東京大学出版会、2000年）など。
調査報告：ベトナム鉄鋼業、日系メーカーのタイ進出、山西省の産業と環境、韓国自動車産業、米沢のエレクトロニクス産業など。
翻訳：W. アダムス&J. ブロック『現代アメリカ産業論 第10版』（共訳：創風社、2002年）など。
- 10 指導教官
が薦める本
- 春休みに、4月に使用するテキストを読み、レポートを提出してください。
- 11 ゼミ見
学の可否
- 歓迎します。14時40分までに第8演習室に来てください。質問はメールでも受け付けます。
- 12 新3年生
に対してひ
とこと
- かなりハードであることは否めませんが、勉強してよかったと言えるようなゼミにしたいと思います。
- 13 そ の 他
- ホームページを見て、自分の関心とゼミの予想される内容をよく照らし合わせてください。メールによる問い合わせも受け付けます。
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm>
kawabata@econ.tohoku.ac.jp